



2017年3月期 決算説明会

2017年5月10日

カシオ計算機株式会社

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。
従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

連結決算概況

単位：億円

連結	'15/4Q 実績	'16/4Q 実績	前年比	'15/通期 実績	'16/通期 実績	前年比
売上高	904	886	98%	3,523	3,212	91%
営業利益	87	103	118%	422	306	73%
利益率	9.6%	11.6%		12.0%	9.5%	
経常利益	77	115	149%	411	262	64%
当期純利益	64	78	122%	312	184	59%
1株利益(円)	24.66	31.42		119.72	72.67	

セグメント別実績 売上・営業利益

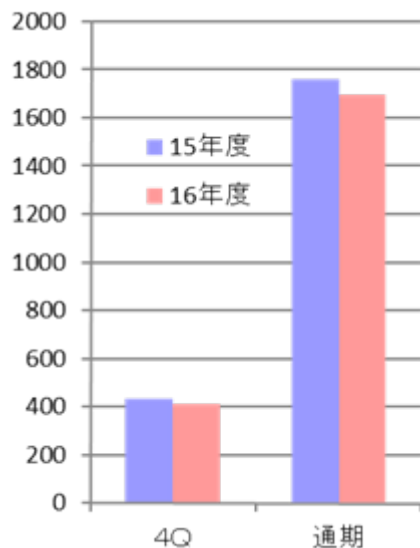
単位:億円

		連結	'15/4Q 実績	'16/4Q 実績	前年比	'15/通期 実績	'16/通期 実績	前年比
売上高	コンシューマ		752	746	99%	3,010	2,728	91%
	システム		131	119	91%	427	397	93%
	その他		22	22	98%	86	87	100%
	合計		904	886	98%	3,523	3,212	91%
営業利益	コンシューマ		101	115	114%	490	372	76%
	システム		3	0	-	▲18	▲22	-
	その他		0	0	-	▲1	3	-
	調整額		▲17	▲12	-	▲49	▲47	-
	合計		87	103	118%	422	306	73%

事業別概況

時計事業

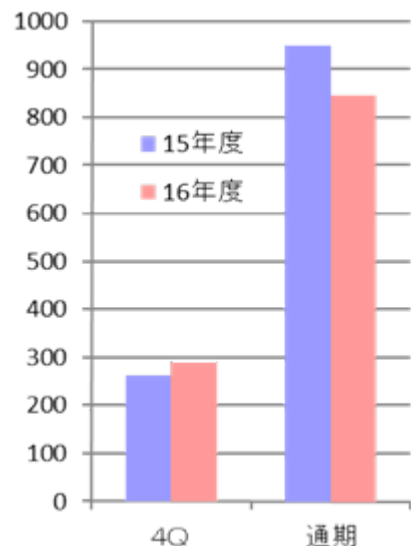
時計(売上)



- ・通期売上は1,696億円で前年比4%減収ながら現通ベースでは5%増収、利益率20%
- ・4Qは強力ニューモデルの投入を今期1Q以降に控え一時的にスローダウン(前年比5%減収)、利益率20%
- ・G-SHOCKは堅調 年間販売台数850万達成

教育事業

教育(売上)



- ・通期売上は844億円で前年比11%減収、利益率7%
- ・4Qは前年比11%増収、利益率12%

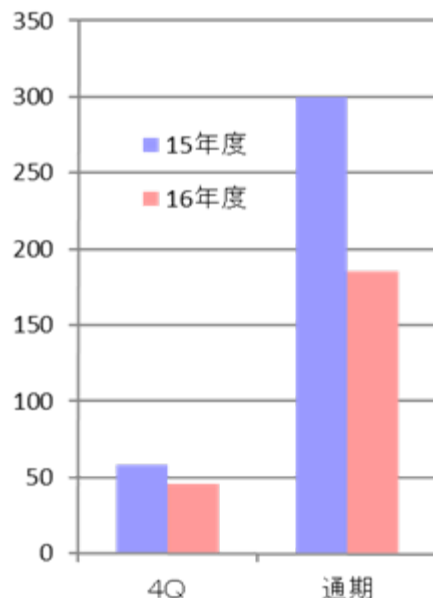
- ＜電卓:約50%＞

 - ・関数電卓を軸に好調持続し、前年比4%減収ながら現通ベースでは8%増収、利益率16%
 - ・4Qは前年比3%増収(現通ベース6%増収)、利益率19%
- ＜辞書:約25%＞

 - ・学生向けの売上キープにより前年比横ばい、利益率3%
 - ・4Qは大口受注の獲得と英会話学習ツールの寄与により前年比5%増収、利益率11%
- ＜楽器:約25%＞

 - ・品質問題による生産遅延で前年比21%減収、赤字13億円
 - ・4Qは前年比42%増収、利益率7%まで挽回

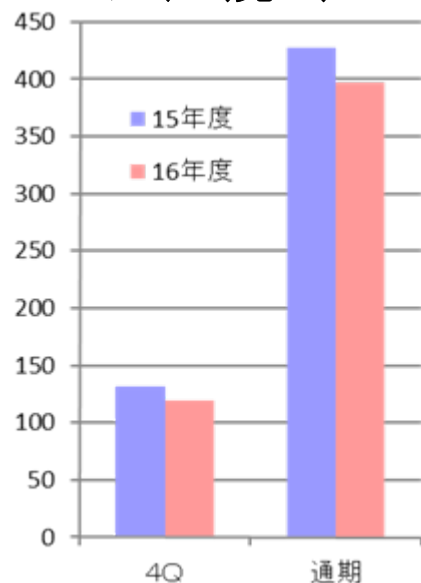
デジタルカメラ(売上)



デジタルカメラ事業

- ・通期売上は熊本震災影響とTR競合先台頭により185億円となり前年比38%減収、赤字5億円
- ・4Qは前年比21%減収ながらTR新製品寄与により赤字解消

システム(売上)



システム事業

- ・通期売上は397億円で前年比7%減収、赤字22億円
 プロジェクター : 約25%
 その他システム : 約75%
- ・4Qは前年比9%減収ながら赤字から脱却(下期赤字8億円)

2018年3月期計画

単位：億円

連結	'16/通期 実績	'17/上期 計画	前年比	'17/下期 計画	前年比	'17/通期 計画	前年比
売上高	3,212	1,600	102%	1,900	115%	3,500	109%
営業利益	306	145	108%	195	114%	340	111%
利益率	9.5%	9.1%		10.3%		9.7%	
経常利益	262	135	164%	185	103%	320	122%
当期純利益	184	95	149%	130	108%	225	122%
1株利益(円)	72.67	38.57		52.77		91.34	

セグメント別売上・営業利益

単位：億円

		連結	'16/通期 実績	'17/上期 計画	'17/下期 計画	'17/通期 計画	前年比
売上高	コンシューマ		2,728	1,395	1,625	3,020	111%
	システム		397	165	225	390	98%
	その他		87	40	50	90	104%
	合計		3,212	1,600	1,900	3,500	109%
営業利益	コンシューマ		372	180	225	405	109%
	システム		▲22	▲5	0	▲5	-
	その他		3	0	0	0	-
	調整額		▲47	▲30	▲30	▲60	-
	合計		306	145	195	340	111%

今後の事業戦略

時計事業

GAKUHAN事業
(関数電卓・電子辞書)

既存の延長線上で継続的に改善
(ビジネスモデルが確立できている事業)
⇒ 約束する価値を守りながら進化／拡大
⇒ 『Only1』『No.1』市場を作り持続的拡大

コンシューマ新ジャンル事業
(楽器・電卓
・デジタルカメラ等)

新戦略の策定が必要な事業
市場の変革(成熟・衰退)に対応した新市場
の創造と育成
⇒ 原点 & カシオらしいジャンル
⇒ 独自の新規ジャンル創造

システム事業
(PA・SA・OA・PPR
・プロジェクター)

構造改革実施により収益改善寄与
残存事業のソリューション展開の強化による
収益基盤確立

■重点商品戦略

G-SHOCKの若者市場のさらなる活性化と普及価格帯のメタルアナログのG-STEELを主軸にヤング社会人向け拡大

インターネットとつながる新世代の電波時計を6ブランド製品に搭載し、メタルアナログジャンル拡大
(EDIFICEの成功事例を他ブランドへ展開)

スマートウォッチ等による新しいターゲット、用途、付加価値の提案(時計事業とリスト端末の相乗効果)



■重点エリア戦略

- 中国 G-SHOCKの爆発的拡大、インターネット販売網大増強
SNSによる宣伝の抜本的強化(ゴリラ第2弾等)
- ASEAN EDIFICE(スマホリンク)を核にジュエラー開拓
- 北米 G-SHOCK35周年、新SHOCK THE WORLD企画



GAKUHAN事業

(関数電卓・電子辞書)

- GAKUHAN体制(毎年買ってもらえる独自の仕組み)の強力展開
- 全世界でGAKUHANによる持続的かつ安定的なビジネスを強化、新市場を開拓
- 毎年、新入生が持続的&安定的に授業の必需品として購入



関数電卓

◆年間出荷台数: 3,000万台／年を目指す

- ・ピラミッド型学販体制(教育省、先生へのアプローチ、教材開発等)の強力展開
- ・非顕在国及び偽物横行市場の重点開拓
 - ↳ 禁止 ⇒ 許可 ⇒ 推奨 ⇒ 義務
- ・新カラーグラフ関数電卓等の投入による数学先進国の大増強



電子辞書

◆中高生向け出荷台数: 60万台／年

- ・学校の認定品／推奨品
- ・支える「しかけ」+ GAKUHAN体制

コンシューマ新ジャンル事業 (楽器・電卓・デジタルカメラ等)

- 市場の変革に対応した新市場の創造と育成
- 各事業の保有する強い技術を融合し、第3の柱新事業を創出



【楽器】

- ・キーボードのラインアップの大幅効率化(60→30モデル)
- ・入門者の情操教育向け鍵盤楽器の新ジャンル開発

【デジタルカメラ】

- ・TRブランド強化
- ・スポーツ、アウトドア市場へ向けた新商品立ち上げ

【電子辞書】

- ・シニアマーケット拡大、及び海外増強

【英会話学習ツール】

- ・独自技術により学習に適したユーザーインターフェイスの進化
- ・英語応対能力検定試験の開始に伴うBtoB売上拡大

■ デジタルカメラ／楽器／プロジェクターの保有する 強い技術を融合し第3の柱事業を創出

・デジタルカメラ／プロジェクター／楽器事業の保有する
強い技術を融合

- ・カメラモジュール
- ・画像処理モジュール
- ・センサーモジュール
- ・ハイブリッド光源モジュール
- ・音源モジュール

システム事業

(PA・SA・OA・PPR・プロジェクター)

■構造改革(OA・PPR)

- ・プリンター事業とOA事業の赤字部門からの撤退
- ・前期特別損失45億円(人事関連、資産廃棄損等)を計上、今期以降の固定費削減に寄与

■選択事業の戦略

- ・差別化された強いハードウェア(PA)
- ・中小個人事業主へのソリューション展開の強化(SA)



為替影響について

<ご参考①>

為替感応度(18/3) (主要通貨)

米ドル
ユーロ
人民元

為替前提 (年間)

113円
118円
16.3円

1円変動による影響額(年間)

売上高	営業利益
10億円	—(※1)
3.5億円	2.5億円
18億円	12億円

※1 ドル円は輸出・輸入がほぼ均衡しており影響軽微

為替レート実績(17/3) (前年差)

米ドル
ユーロ
人民元

第4四半期

113.6円(-1.9円)
121.1円(-6.1円)
16.6円(-1.0円)

通期

108.4円(-11.7円)
118.8円(-13.8円)
16.1円(-2.8円)

為替影響額(対前年)(17/3) (含むその他諸通貨)

売上高
営業利益

第4四半期

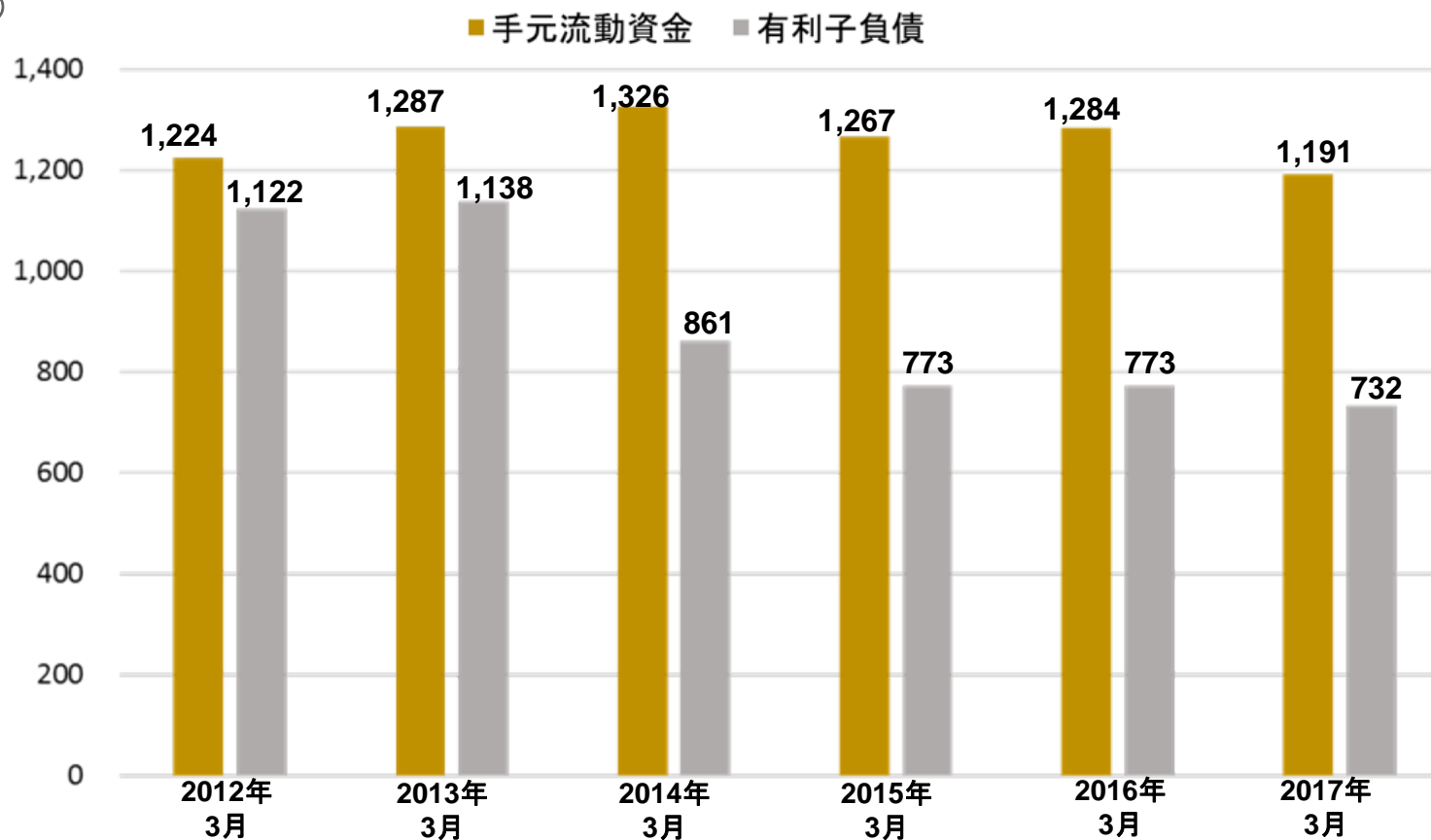
⊖ 18億円
⊖ 9億円

通期

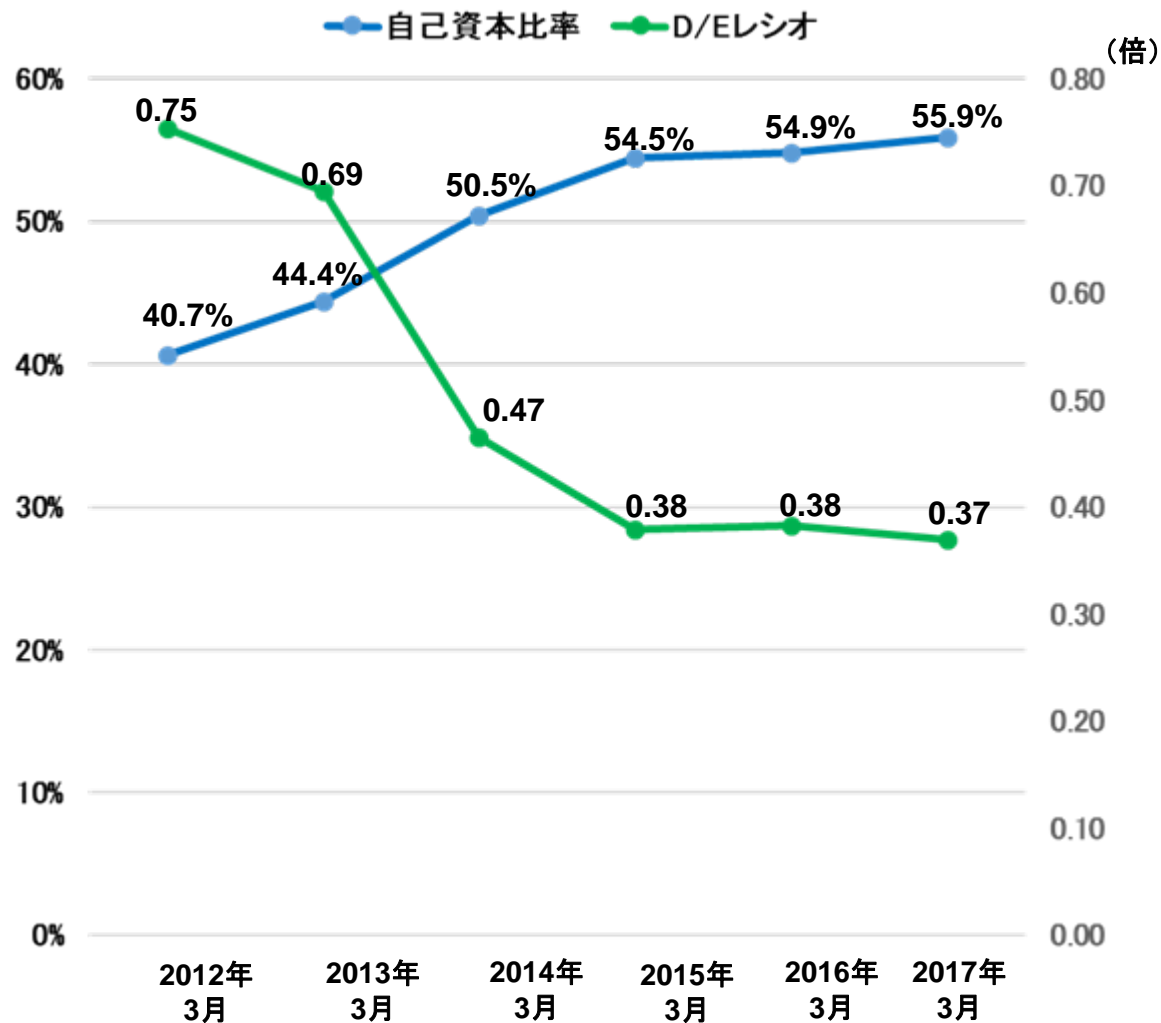
⊖ 228億円
⊖ 104億円

■手元流動資金・有利子負債

(億円)





■ 自己資本比率・D/Eレシオ

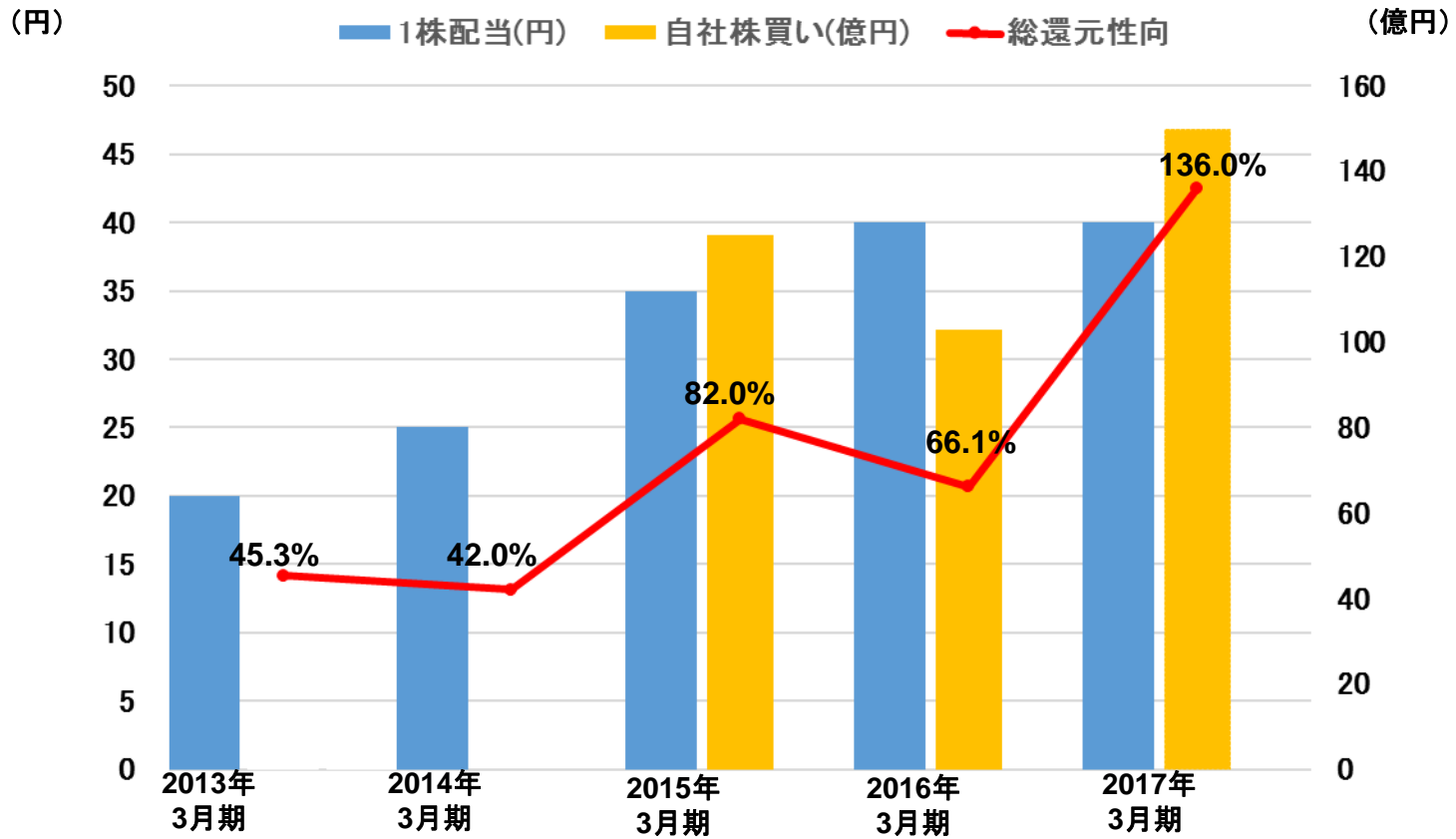


■年金財政

・年金財政は積立超過(財政健全化)を維持

	2015年3月	2016年3月	2017年3月
年金資産	714億円	653億円	693億円
退職給付債務(A)	585億円	576億円	567億円
積立超過額(B)	+129億円	+78億円	+126億円
超過割合(B÷A)	+22%	+14%	+22%
	 電機、精密30社 平均▲23%	 電機、精密30社 平均▲30%	

■ 1株配当・自社株買い・総還元性向



END